東京新聞 TOKYO Web

【社説】

馬総統就任　台湾海峡安定に全力を

2008年5月21日

三月の台湾総統選で当選した国民党の馬英九氏が二十日、総統に就任し陳水扁政権下で途絶えていた中国との対話再開を呼び掛けた。中国は関係改善に応じ、共に台湾海峡の安定を図ってほしい。

馬総統は就任演説で、中国の四川大地震に言及し援助や復旧に進んで協力する立場を強調した。

異例にも中国の胡錦濤国家主席が台湾に呼び掛けた「争いを棚上げして、共にウィンウィン（互恵）を」などの言葉を引用し「理念は一致する」と言い切った。

中台対話は一九九〇年代末から、中国が前提とした「一つの中国」を認めるかどうかをめぐり中断してきた。しかし、馬政権誕生を待たずにこの日、副総統に就任した蕭万長氏が四月に訪中し、胡主席と会談した。今月二十六日には呉伯雄国民党主席も与党トップとして初めて訪中する予定で、急速に双方の雪解けが進んでいる。

中台は国民党政権時代の一九九二年に「一つの中国」の原則を認め、定義をそれぞれ解釈することで合意したことがある。馬総統は、この合意に基づく対話再開を呼び掛けた。中国側も「一つの中国」をめぐる論議を蒸し返さず早急な対話に踏み切るべきだ。

馬総統は対話再開に向け、中台が外交のある国を奪い合い、中国が台湾を国際組織から締め出す外交戦争の「休戦」を呼び掛けている。圧倒的優勢にある中国は大国の度量を示すときではないか。

台湾の各種世論調査では台湾海峡の現状維持を望む声が圧倒的多数を占める。馬総統は総統選で掲げた中国とは「統一せず、独立せず、武力を用いない」という立場をあらためて確認した。

中国が「継続して自由、民主、富の平等の大道」を歩むかどうかが中台関係を最終的に解決するカギとなると述べた。このため、「安全保障と貿易のパートナー」である米国との関係を強化。「理念が通じ合う」国々と協力を拡大するとしたが、歴史的関係が深く民間交流も拡大する日本に言及しなかったのは残念だ。

馬総統が就任演説に示した方針を実現するためには、国民党政権の長期的な安定が前提になる。

自ら戒めたように国民党独裁時代の「不法盗聴やメディアへの干渉」が復活し、民進党政権が陥った「権力の腐敗」を招けば、四年後に必ず有権者の審判が下る。

「台湾を主とし人民の利益を」はかる施政の原則を守れるかどうかに、すべてがかかっている。

Copyright © The Chunichi Shimbun, All Rights Reserved.